



マルト便

MARUTO INFORMATION

ホームページにバックナンバー掲載中

マルト商事

検索

お客様の笑顔のために…

チャレンジ

6月号 JUN 2021

<http://www.maruto-shoji.co.jp>

川上から川下まで…先行きが

新型コロナウイルス感染症で罹患された皆様、関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、医療従事者の皆様、病院関係の皆様、新型コロナウイルスの感染拡大防止にご尽力されている皆様に心より感謝を申し上げます。

「またか」というのが正直な感想です。複数の都道府県で発出されている緊急事態宣言、まん延防止特別措置が6月中旬まで延長となりました。もはやワクチンの接種が進むか、特効薬ができるかしなければこれ以上良い方への変化はないのではないのでしょうか。

そして2021年7月23日午後8時にTOUKYOオリンピック2020の開会式を迎えます。現時点ではオリンピックを開催するのかどうかは確定していません。どのような決定になったとしても我が国は痛みを伴うのではないのでしょうか。

時は止まりません。そして戻ることはできません。今年の秋口に日本がどうなっているのか。多様なストーリーが想像されます。しかし結果は一つ。あの時、こうしておけばよかったとならないようにしておきたいものです。

タマネギの状況ですが、先月「府県産順調」と記載させて頂きました。しかし様相が変わってきました。例年より大幅に梅雨入りが早まったことにより、ちょうど肥大期に入ってきたタマネギの生育が止まってしまった状況です。5月は例年であれば日照量・気温も上昇して府県産タマネギの生育において最終ステージとなるころです。西の産地においてはそのあたりが懸念材料です。北陸・東北については現時点でそれほど大きな生育不良の話は上がっていません。順調な生育を期待しています！

中国産タマネギは6月に山東省へと切り替えになりますが、どうやら数量が相当少ないようです。相場は堅調に推移するものと思います。

本年の府県産時期のタマネギにおいては、産地側も、消費側も非常に先行きが不透明な状態に思います。そのような環境下ではありますが、より良い商品をお届けすることで皆様に貢献できればと考えております。

タマネギ ムダナクツカウ プロジェクト

玉葱を無駄なく使うプロジェクト。マルト商事の剥き玉葱事業で排出される残渣が1gでも減るように。世界のフードロスの削減に1gでも貢献していくために。

今月はタマネギの茶皮の再利用プロジェクトの進捗をご紹介させていただきます。食品残渣としてはやっかいものの扱いをされているタマネギの茶皮。もともと水分が少ないので切断するにしても切れにくい。微生物による分解も時間がかかって進まない。現在堆肥にしてもらっていますが、あまり多い量は受け入れしてもらえない。本当に処分に困る厄介者なのです。

一方、タマネギ産地の北海道では燃料用のペレットなどに再加工をしてリユースしているという話を聞きました。マルト商事でも何かタマネギ茶皮に付加価値を付けることができないか。そのように考えています。

そんな中、前回もご紹介させて頂いた岐阜県の艶金様にご協力を頂いて、タマネギ茶皮を染料として使用するプロジェクトを進めています。現時点ではタマネギ染料での色味のテストを行っていただいています。商品として成立させるためには、色味は勿論ですが、洗濯した時に色落ちしないか。変色しないか。など、草木染とは異なる配慮が必要となり、勉強になります。現在テスト中のものをちらりとお見せします(笑)

皆さんに「いいね」と使っていただけるものを目指していきます！ご期待ください！



“食”の分野で役立つマーケティング情報

ITなどについて、仕事柄流行や最先端の技術を常に追うようにしています。私のような仕事をしている者にとって、まったく知らなかったでは済まない場面も多々あります。ところが、自分が仕事で使っているパソコンなどのIT機器が常に最先端という訳ではありません。ひと昔前には、パソコンの性能の向上も日進月歩でしたから、新しい製品を使いたいと思っていました。でも、いつの頃からか（たぶん7、8年前ごろ）、パソコンの性能も普段使う分においては、性能もほとんど変わらなくなり、最新機種の新規も追わなくなりました。もちろん、間にはスマートフォンの劇的な性能の進化はありました。

前置きが長くなりましたが、そういうわけで私が仕事でメインに使っているノートパソコンは、ほぼ10年前の商品です。ほとんど不便もなく、いまま現役です。ところが、付属の充電機器などは劣化が激しく、いまにも断線しそうなのでさすがに買い替えの必要が出てきました。メーカーのホームページでいくら探しても見つからず、もちろん廃番で途方に暮れていたところ、もしかしたらと思いアマゾンでパソコンの商品名、型番と充電器を入力して検索したところ、それがいくつも見つかりました。純正品ではありませんが、もちろん新品で値段もリーズナブル、しかし聞いたことのないメーカーのものばかりです。ところが商品の説明も丁寧でしたし、何よりこんなに古いパソコンの付属品を作っていることに小さな感動を覚えました。

これがいま続々と現れている、中国の充実した消費財サプライチェーン（供給網）とインターネット販売の手法が結び付いての、新たな成長パターンを持つ中国発の消費財の企業群です。このタイプの新興企業がここ1、2年で次々と現れています。大きな特徴はこれらの新興企業が中国国内ではなく、日米欧の若者を顧客基盤に成長しているという共通点があることらしいです。

例えば、「SHEIN（シーイン）」は2014年に生まれたアパレルランドで、中国製アパレルを越境ECで欧米市場に販売するのが主力事業です。江蘇省に本社を置く会社の2020年の売上高はなんと1兆円規模に。もうひとつは、私もよくお世話になっているスマートフォン用充電器やイヤホンなど電子機器の「Anker（アンカー）」です。こちらも売上高の98%を中国以外で占めるという独特の収益構造です。これら以外にも中国発の消費財ブランドの予備軍は次々に現れているそうです。これらは次々と日本の消費財メーカーの市場を奪おうとしているようで、日本の消費材メーカーもうかうかではできません。

数年前に仕事で中国広州に行き、現地のビジネスミーティングに参加した経験がありますが、進むスピードと意思決定の速さには目を見張ったことを思い出しました。もちろん、中国語なのでそこは雰囲気を感じただけですが。これからも中国を意識せずに、ビジネスを進めるのは難しいものがあると強く感じさせてくれた、私の古いパソコンの充電器の買い物でした。



木下康司 きのしたこうじ

1966年生まれ。キノ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役。

デザインとコミュニケーションの力を使い商品やサービスの価値を高めてブランド力を作り出すことに取り組み続けている。

<http://www.kino-company.com>

6月 玉葱商品産地情報

産地		状況
国産黄玉葱	北海道 佐賀 他	北海道産最終盤 品質見極めながら府県産に切り替え
輸入黄玉葱	NZ	品質は安定しています
中国剥き玉葱	江蘇省 山東省	6月中旬から山東省 小玉傾向
国産赤玉葱	淡路 他	現在入荷はありません
輸入赤玉葱	NZ	品質は安定しています

※本記事に関するご要望・改善等ございましたらお気軽にご連絡ください。

お問い合わせはコチラ⇒TEL049-258-5315